

様式 F-7-2

科学研究費助成事業（学術研究助成基金助成金）実績報告書（研究実績報告書）

所属研究機関名称		大妻女子大学	機関番号	32604
研究代表者	部局	国際センター		
	職	講師		
	氏名	森 功次		

1. 研究種目名 若手研究(B) 2. 課題番号 15K16636

3. 研究課題名 芸術評価のための現代的価値論の構築：アートワールドの多元化をふまえて

4. 補助事業期間 平成27年度～平成30年度

5. 研究実績の概要

本年度は「個人的な美的経験・美的判断」に注目しつつ研究を進めた。
 まず、7月に岡山大学で開催された合評会「日常に根ざした言葉で哲学をすること：飯田隆『新哲学対話』をめぐって」に登壇し、「ワインの評価基準の独特なところ」というタイトルで発表した。その後、この成果を改稿し「ほんとうに台所からワインを語るために 飯田隆『新哲学対話』第1章「アガトン」から考える」というタイトルで論文化したものが『邂逅：岡山大学哲学倫理学会年報』に掲載された。
 また昨年登壇したフッサール研究会でのシンポジウム「現代現象学の批判的検討」をふまえた書評への応答論文を「現象学の境目問題について美学の観点から答える」というタイトルで執筆し、『フッサール研究』に寄稿した。
 あわせて、ネタバレという従来あまり注目されてこなかった事象をテーマにワークショップ「ネタバレの美学」を開催した。このワークショップでは、高田敦史、渡辺一暁、松永伸司の三氏に登壇を依頼し、コメンテーターに稲岡大志氏を迎えた。その内容は論文化され、今後、哲学雑誌『フィルカル』に掲載される予定である。
 また、「サルトル」「美の哲学」の項目を執筆した哲学の教科書『よくわかる哲学・思想』（ミネルヴァ書房）が刊行された。
 本研究をふまえて見えてきたのは、現代の美的経験論の発展をあらためて捉えなおすことの必要性である。新たに採択された次年度以降の研究課題では、現代の美的経験論について研究を進めていきたい。

6. キーワード

分析美学 美的価値 趣味 美的経験 美的判断 ネタバレ 芸術的価値 サルトル

7. 研究発表

〔雑誌論文〕 計2件（うち査読付論文 0件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 1件）

1. 著者名 森功次	4. 巻 16
2. 論文標題 現象学の境目問題について美学の観点から答える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 フッサール研究	6. 最初と最後の頁 152-160
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1版

1. 著者名 森功次	4. 巻 33
2. 論文標題 ほんとうに台所からワインを語るために 飯田隆『新哲学対話』第1章「アガトン」から考える	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 邂逅、岡山大学哲学倫理学会年報	6. 最初と最後の頁 2-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計2件（うち招待講演 1件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 森功次
2. 発表標題 ワインの評価基準の独特なところ
3. 学会等名 講演会「日常に根ざした言葉で哲学をすること：飯田隆『新哲学対話』をめぐって」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 森功次
2. 発表標題 観賞前にネタバレを読みに行くことの倫理的な悪さ、そしてネタバレ許容派の欺瞞
3. 学会等名 ワークショップ「ネタバレの美学」
4. 発表年 2018年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 納富 信留、檜垣 立哉、柏端 達也	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ミネルヴァ書房	5. 総ページ数 232
3. 書名 よくわかる哲学・思想	

8. 研究成果による産業財産権の出願・取得状況

計0件（うち出願0件 / うち取得0件）

9 . 科研費を使用して開催した国際研究集会

計0件

1 0 . 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

-

1 1 . 備考

-